

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

3/05更新

平野遺跡

平野町

個人の方の住宅建設に先立つ発掘調査です。中世の溝・竪穴状土坑・柱穴などが見つかっています。



調査風景



竪穴状土坑

宮上道遺跡

小田町

市道建設に先立つ発掘調査です。ちょうど表土除去作業に着手したところです。事前に行った試掘調査では弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が確認されています。



作業風景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

2/05更新

伊勢国分寺跡第29次

国分町字堂跡ほか

1月31日(土)に現地説明会を開催したところ、寒風の中にもかかわらず50名以上の方にお集まりいただきありがとうございました。現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル947KB)からご覧いただけます。現場は、実測作業が完了し次第埋め戻します。

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



現地説明会



僧坊推定地調査区全景(南から)

甲懸II遺跡ほか

稲生町字甲懸ほか

最後に残された甲懸II遺跡の追加調査です。溝とも自然流路とも判断のつかない落ち込みから、須恵器・埴輪片がまとまって出土しました。埴輪には円筒埴輪のほかにも人物・家などの形象埴輪も見られます。調査区東側の尾根上にかけて古墳が存在したとみられます。



埴輪が出土した落ち込み



出土した埴輪

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

1/05更新

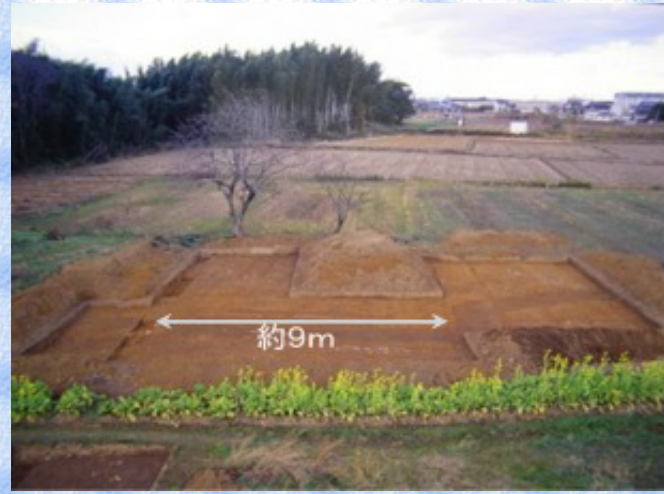
伊勢国分寺跡第29次

国分町字堂跡ほか

遺構の検出作業は12月いっぱいまで終了しました。回廊西調査区では西辺築地の基底を検出しました。今後は記録作業を行い。現地説明会は1月31日(土)午後2時です。



僧坊調査区全景
(西から:橙色の地山が僧坊基壇, 土坑は古墳時代)



北門調査区
(南から:築地内溝が9m途切れます)

甲懸遺跡ほか

稲生町字甲懸・野田ほか

中勢バイパスにかかる試掘調査です。甲懸II遺跡の追加調査部分を除き、ほぼ終了しました。浄土池遺跡では弥生土器を含む層が、また池ノ下II遺跡では表土から石鏃が見つかりました。遺構は全く残っていませんでした。



甲懸II遺跡から南方(中勢バイパス)を望む



石鏃

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

12/05更新

天王遺跡 11-3次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

12月5日に測量のための航空写真撮影を行って11-3次調査も終了しました。今年度の調査はこれで完了です。

飛鳥時代の掘立柱建物柱穴、中世の建物の柱穴、土坑や溝多数が検出されました。中世の溝から石製の玉（数珠）が出土しました。



調査区全景



玉

伊勢国分寺跡第29次

国分町字堂跡ほか

僧坊推定地調査区：東調査区を新たに設け、僧坊基壇の東端を確認しました。僧坊基壇の東西長さは70mあまりありそうです。

北門推定地調査区：築地基底と内外溝を検出しました。推定の位置で内溝が9mにわたって途切れ、門が推定されますが、遺構としては全く残っていません。

回廊南東部調査区：鐘楼または経蔵の推定地です。お目当ての遺構は検出できませんでしたが、金堂の改修に関わる大きな土取り穴・瓦廃棄土坑が見つかりました。

回廊西調査区：かつて鬼瓦が出土したという金堂の西側に南北トレンチを入れて調査中です。



講堂南東部調査区

甲懸遺跡ほか

稻生町字甲懸・野田ほか

中勢バイパスにかかる試掘調査です。野田遺跡はほぼ終了し、甲懸遺跡・浄土池遺跡・池ノ下遺跡が調査中です。かなりの範囲で開墾や土取りの削平を受けています。甲懸遺跡では調査地の北端で埴輪や須恵器等が出土し、若干の遺構を確認しました。浄土池遺跡でも狭い範囲で弥生土器を含む層が確認されています。

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 4月 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

11/05更新

伊勢国府跡18-2次

広瀬町字仲土居

10月24日に空中写真撮影を実施して現場作業は完了しました。今回は、現地説明会は開催いたしません。



全景



南区画の北辺築地側溝

天王遺跡11-2・3次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

10月10日に実施した測量のための航空写真撮影をもって11-2次調査は終了しました。11-3次調査は約300㎡の小規模な調査で11月4日から表土除去に着手しました。既存建物の基礎でかなりの範囲が壊されていますが、掘立柱建物の柱穴が確認されています。12月末までを予定しています。



11-2次(北)調査区全景(上が北)



11-2次(南)調査区全景(下が北)



11-3次表土除去

伊勢国分寺跡第29次

国分町字堂跡ほか

寺域東半トレンチ：検出した大形掘立柱建物2棟の航空写真撮影を10月24日に実施しました。今後は周辺で検出された土坑の断ち割り作業を行います。

回廊内トレンチ：塔はありませんでした。国分寺以前の掘立柱建物・竪穴住居が検出されています。

僧坊推定地トレンチ：講堂の北側です。僧坊も礎石建ち瓦葺の建物だったようですが、基壇はおろか地下の基礎地形（地盤改良）部分も削平されています。しかし、周囲に瓦を含んだ溝が残り、およその規模が確認できます。まだ精査までは至っていませんが東西に長い大形の建物であったと思われます。



大形掘立柱建物SB0301(上が北)



大形掘立柱建物SB0302(西から)

野田遺跡

稲生町字野田

稲生地区の中勢バイパス建設予定地にかかる野田遺跡・甲懸遺跡・浄土池遺跡・池ノ下遺跡の40,000㎡弱を対象とした大規模な試掘調査です。10月27日にまず野田遺跡に着手しました。



調査地全景



調査風景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

10/05更新

伊勢国府跡18-2次

広瀬町字仲土居

遺構の検出作業はほぼ完了しました。

伊勢国府政庁の北方に位置する官衙(役所)域は、およそ120m四方の築地または土塁に囲まれた区画が12mの街路をはさんで整然と配置されて、その中に瓦葺礎石建ちの建物が並んでいたと考えられています。今回の調査区は、仲土居地区の南北2つの区画が接する部分で、その西端にあたります。

築地(土塁)自体は全く削平されていて両側の溝のみが検出されました。外側の側溝は幅約0.5mで、内側のものが幅約3mと極端な差があります。南区画の築地(土塁)は、西および北辺とも「状にきちんと検出されましたが、北区画の築地(土塁)は西辺のみで、南辺にあたる溝は検出されませんでした。このことから、すべての区画が計画どおりに完成してたわけではないと推定されます。また、これより西側には溝等は延びておらず、この西辺外側の細い溝が官衙群の西端といえそうです。



北区画の南西コーナー(北から)



南区画の北西コーナー(北西から)

天王遺跡11-2次

岸岡町字天王(鈴鹿厚生病院内)

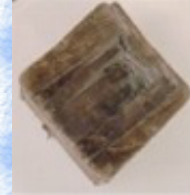
調査は急ピッチで進められすでに北半部の航空写真撮影まで完了しました。残りの半分も10月の上旬には航空写真撮影を行って2期の調査を終える予定です。

断面V字の大溝(環濠)ですが、今回は下層からまとめて弥生時代後期の土器が出土しています。上層からは、大量の須恵器・土師器とともに土錘や知多式製塩土器なども多く出土しました。

飛鳥~奈良時代の遺構としてはこの大溝上層のほか竪穴住居・掘立柱建物があります。掘立柱建物は大部分が総柱(床を支える柱を持つ)の倉庫で、建物の向きにより2時期に分かれます。倉庫の配置は密で、企画性もみられます。天王遺跡は、これまでの調査から官衙(役所)あるいは豪族居宅ではないかと考えられていますが、それに伴う倉院のような場所であるのかもしれませんが。

中世の遺構としては、掘立柱建物、土坑、井戸そして堀状の溝などがあります。井戸の底からは木製の枘やへら状をした木製品などが出土しました。





大溝からは大量の須恵器が出土しました。

井戸と出土した枅(底)

伊勢国分寺跡第29次

国分町字堂跡ほか

伽藍地東の遺構の検出はほぼ終了し、写真撮影や記録作業を行っています。先月報告した大形掘立柱建物2棟のほかに、掘立柱建物もう1棟そして伽藍地東地区と講堂の間を隔てる築地と棟門らしき遺構も確認されました。また、掘立柱建物の周辺にはたくさんの土坑（ごみ等を処分した穴）がみられ、瓦・土器等のほかに志摩式製塩土器もみついています。

10月に入って、塔を確認するための回廊内および回廊南のトレンチ調査と、僧坊推定地の面的な掘削を始めました。まだ塔が存在したことを示す遺構は確認されていませんが、回廊内のトレンチからは金堂に葺かれていたとみられる鬼瓦が出土しました。



大形掘立柱建物SB0301



回廊内トレンチから出土した鬼瓦

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

09/05更新

伊勢国府跡18-2次

広瀬町字仲土居

9月2日から県道辺法寺・加佐登停車場線の鈴鹿市と亀山市の境のところから北へ200m入った地点で調査を始めました。調査区は、これまでの調査から推定されている方面地割案でいくと区画施設や区画の北門が発見される予定の地点です。



表土除去作業



姿を現せた区画施設の溝(黒色の部分)

天王遺跡11-2次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

8月19日から11次第2期の調査が始まりました。

調査区内は病棟の基礎のコンクリートによって分断されていますが、それでも掘立柱建物・溝・井戸等の遺構が多数確認されはじめています。



病棟の基礎が残る中を掘る。



それでも遺構は残っていました。

伊勢国分寺跡第29次

国分町字堂跡ほか

伽藍地の南東部と北東部にそれぞれトレンチを入れました。9月1日から作業員を入れて検出作業を始めたばかりですが、それぞれから大形の掘立柱建物が姿を表しています。

南東部のトレンチでは、昨年検出したSB0220の北側9mから、5間×2間（柱間3m）の東西棟の掘立柱建物が検出されました。

北東部のトレンチからも、7間×2間で二面に庇を持つ東西等の掘立柱建物が検出されました。周囲には土器を含んだ土坑も数多く検出されています。



一辺 1 m 以上ある掘立柱建物の柱穴



創徳中地歴クラブの体験発掘

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

08/05更新

加佐登遺跡

加佐登二丁目

住宅兼店舗建築に先立つ発掘調査を行いました。縄文時代晩期の土器棺墓4基のほか多数の土坑・柱穴が見つかりました。土器棺墓には幼くして亡くなった乳幼児が葬られたとみられます。

また、柱穴には奈良時代～平安な時代のものもあり、一帯に同時期の集落が存在したとみられます。。



土器棺墓SX01



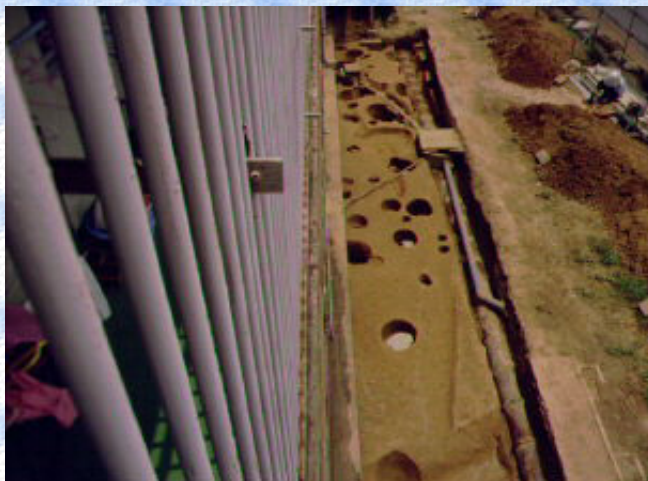
土器棺墓SX02

天王遺跡11次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

11次第1期の調査は終了しました。

病棟の南側の狭い調査区内からは、柱穴掘り方の底に大きな石を据えて礎石（礎板）とした掘立柱建物が検出されました。柱穴から出土した土器から中世のものと見られますが、それでもこのような大きな石を礎石とした例は珍しく、中世の天王遺跡内でも中心的な建物であったのではないかとみられます。



病棟南調査区と礎石を持つ建物



病棟北調査区全景

天王遺跡12次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

第12次調査も完了しました。

大溝SD1201は、弥生時代包含層を掘り下げ幅2.5～3m、深さ1.8mの鋭いV字形となりました。弥生時代後期前半の高坏などが出土しました。

調査区の西端で検出されたSD1205は幅3m、深さは1.3～1.7mとなりました。これまでの調査で確認されている、環濠の続きとみられます。上層からは古墳時代後期の須恵器がまとまって出土し、下層からは弥生時代の包含層が確認されました。SD1201同様に弥生時

代の環濠を古墳時代後期に掘り直したものとみられます。



溝SD1201



溝SD1205

伊勢国分寺跡第28次

国分町字堂跡ほか

調査が始まりました。まず、昨年度の調査でも確認できなかった塔跡を求めて、回廊の内部と南東部にトレンチを入れます。その後、僧(?)坊の調査に移っていく予定です。



調査前の国分寺跡

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

07/05更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第18次調査

広瀬町字矢下・西富田町字矢卸

政庁跡から真南の延長線上にあたる台地の端部に切り通し状の地形にトレンチ設定しましたが、ここでも古代に遡るような遺構は検出されませんでした。これで、昨年度から続けてきた政庁南面の遺構確認調査はすべて終了です。今回は、残念ながら遺構検出がありませんでしたので現地説明会は開催しません。今後の予定としましては、夏以降に政庁の北方地区で1～2箇所調査を行う予定です。



6ELE-Aトレンチ



6ALC-Gトレンチ

天王遺跡11次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

11次第1期の病棟間の調査は、遺構掘削もかなり進んできました。古墳時代後期～奈良時代の遺構として3間×3間(5.5m×5.5m)の大形の掘立柱倉庫1棟と竪穴住居1棟が確認されています。中世の遺構としては、南東隅土坑をもつ掘立柱建物と館の周囲に巡らされたと思われる堀状の溝も検出されています。溝からは五輪塔の一部なども出土しています。さらに、調査区の東隅から、新たな古墳時代大溝の一部が確認されました。今後は、新たに現在の病棟が取り壊された後に跡地を調査します。



掘立柱建物倉庫



溝から五輪塔の出土

天王遺跡12次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

第12次調査では、10次調査で検出された大溝の続きであるSD1201は、古墳時代の包含層を掘り終えいよいよ下層の弥生時代包含層の掘り下げに入りました。古墳時代包含層からは先の鉄製紡錘車に引き続き土製紡錘車も出土しました。調査区の西端からは、第3・5次調査で検出されている大規模な古墳時代環濠の続きとみられるSD1205が姿を表しています。断ち割り調査では、たくさんの土器とともに土馬の破片も出土しています。また、掘立柱列(建物)も1棟検出しています。



掘立柱列(建物)



土馬の頭部

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

06/05更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第18次調査

広瀬町字矢下・西富田町字矢卸

南門の前方で行われた6AJC-F・6AJD-E区の調査ですが、道路に伴う溝などは全く確認できませんでした。国府政庁はやはり未完成だったのか・・・謎は深まるばかりです。

また、政庁跡から真南の延長線上にあたる台地の端部に切り通し状の地形がみられますが、この地形が古く遡るものかどうかについても新たにトレンチを入れて調査することにしました。



6AJC-F調査区



6AJD-E調査区

天王遺跡11次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

11次調査は第1期分の遺構検出が終わったところです。この調査区では古代末～中世の遺構が比較的密で、掘立柱建物・土坑・井戸・溝等が検出されています。9次調査で見つかった墨書土器にかかれていた「かんだち」（御厨）に関連のある遺構かもしれません。

また、飛鳥時代～奈良時代と思われる大形の掘立柱倉庫も1棟見つかりました。



掘立柱建物と土坑の検出状況



中世の土坑を掘る

天王遺跡12次

岸岡町字天王（鈴鹿厚生病院内）

第12次調査も急ピッチで進んでいます。こちらは調査区を大溝が縦横に走っていて複雑です。第10次調査で確認された大溝の続きとみられるSD1201の調査が進んでいますが、上層から古墳時代後期の須恵器・土師器とともに鉄製紡錘車が2点も出土しました。県内では鉄製紡錘車の出土例自体が少ないうえに、溝から一括出土した点で興味深い資料となりそうです。



SD1201の検出状況



鉄製紡錘車の出土

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成15年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#)

05/05更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第18次調査

広瀬町字矢下

学術調査が始まりました。調査地は国史跡の指定地内で、国府政庁の南門のすぐ正面にあたります。政庁の前にはどのような街路が存在したのか、しなかったのかを調べます。調査は6月末までを予定しています。現在表土除去が終わって、作業員による遺構検出が始まったところです。



6AJC-F調査区(奥の森が正殿基壇)



6AJD-E調査区

天王遺跡11次・12次

鈴鹿厚生病院の改築に伴う天王遺跡の発掘調査も始まりました。2つの事業主体が工事を行うため11・12次と区別して並行して作業を進めることになりました。

11次調査は病棟の取り壊しに伴い調査区を広げながら全体約2,400㎡を12月頃までかけて調査します。ようやく第1期分の表土除去が終わったところです。

12次調査は、約700㎡を6月末頃までに調査する予定です。12次調査区では、過去の10次調査で検出された大溝と3・5次調査で検出された大溝の両方が見つかる可能性があり成果が期待されます。



11次調査区表土除去



12次調査区遺構検出

仲見秀雄先生ご逝去

元県立神戸高等学校教諭・前鈴鹿市文化財調査会会長の仲見秀雄先生が4月25日に逝去されました。先生は神戸高校郷土史クラブの若者を率いて、まだ埋蔵文化財保護行政が十分に確立していない昭和30～40年代に、鈴鹿市の遺跡保護活動と発掘調査を担われました。特に昭和35年の上箕田遺跡の発掘調査と報告書は当時としては水準の高いものであり、上箕田遺跡は弥生時代の代表的な遺跡として歴史の教科書や資料集にも紹介されることになりました。さらに、昭和49年から昨年までの28年間、鈴鹿市文化財調査会の会長として各種の文化財保護を推し進められるとともに、鈴鹿市史全5巻の編纂にも力

を尽くされました。ご冥福をお祈りいたします。



昭和40年、伊奈富遺跡発掘の学生達と仲見先生(前列左端)

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)